

大衡村有公共施設 地球温暖化対策推進実行計画

第 5 次実行計画

令和 5 年度～令和 12 年度

令和 5 年 10 月

大 衡 村

目次

第1章 計画の基本的事項	1
1-1 はじめに	1
1-2 計画策定の背景.....	2
1-3 実行計画の目的.....	2
1-4 対象範囲	2
1-5 基準年度・計画期間・目標年度	3
1-6 対象とする温室効果ガス	3
第2章 温室効果ガス排出量の算定	4
2-1 排出量算定の対象活動.....	4
2-2 排出量算定の方法.....	4
第3章 第4次実行計画の評価	5
3-1 第4次実行計画の概要	5
3-2 排出量の算定結果.....	6
3-3 第4次実行計画の目標	8
3-4 総排出量の評価.....	8
3-5 各年度の総排出量の評価.....	9
3-6 組織・施設別の評価	10
3-7 組織・施設別の各年度の評価.....	11
3-8 エネルギー別の評価	13
3-9 エネルギー別の各年度の評価.....	14
3-10 その他の取組.....	16
第4章 削減目標の設定	18
4-1 将来排出量の予測.....	18
4-2 目標設定	19
4-3 措置の目標.....	20
第5章 計画の推進と点検・評価方法	23
5-1 計画の推進.....	23
5-2 計画の点検・評価方法.....	25
5-3 計画・実績の公表.....	25
資料編	
温室効果ガス排出量算定結果	

第1章 計画の基本的事項

1-1 はじめに

地球温暖化問題は、その予測される影響の大きさや深刻さからみて、人類の生存基盤に関わる最も重要な環境問題の一つとなっています。既に世界的にも平均気温の上昇、雪氷の融解、海面水位の上昇が観測されているほか、我が国においても平均気温の上昇、大雨、台風等による被害、農作物や生態系への影響等が観測されています。そのため、地球温暖化を防止することは人類共通の課題といえます。

地球温暖化を防止するため、我が国においてもこれまで様々な取組を行ってきました。

(1) 京都議定書第一約束期間における我が国の取組

先進国の温室効果ガスの削減を法的拘束力を持つものとして約束する京都議定書が気候変動枠組条約において採択されたことを受けて、我が国は 2002 年に京都議定書を受諾し、第一約束期間（2008～2012 年度）における温室効果ガス排出量を、基準年（原則 1990 年）比で 6%削減する約束を遵守すべく総合的かつ計画的な対策を講じ、基準年比 6%減を達成しました。

(2) 2020 年までの目標に関する我が国の取組

京都議定書第一約束期間以降（2013 年以降）の温室効果ガス排出削減に関する国際交渉においては、気候変動枠組条約締結国会議で議論がなされてきました。2020 年度の削減目標については、1990 年度比 25%減としていたところ、2011 年の東日本大震災などの我が国が直面した状況の変化を受けて目標の見直しを行い、原子力発電による温室効果ガスの削減効果を含めずに設定した目標として、2005 年度比で 3.8%減とすることとしました。

(3) 2020 年以降の温室効果ガス削減に向けた我が国の目標

我が国は、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故によりエネルギーに関する大きな環境の変化に直面し、エネルギー戦略を見直し再構築するため、新たなエネルギー基本計画（H26 年）が決定されました。2020 年以降の我が国の温室効果ガス削減に向けた「日本の約束草案」（H27.7.17 地球温暖化対策推進本部決定）はエネルギーミックスと整合的なものとなるよう、技術的制約、コスト面の課題などを十分に考慮した裏付けのある対策・施策や技術の積み上げによる実現可能な中期目標として、国内の温室効果ガスの排出削減・吸収量の確保により、2030 年度においては、2013 年度比で 26.0%減（2005 年度比 25.4%減）にすることと定め、国連気候変動枠組条約事務局に提出されました。

その後、フランス・パリで開催された国連気候変動枠組条約第 21 回締約国会議（COP21）では、京都議定書に代わる温室効果ガス削減のための新たな国際枠組として、「パリ協定」が採択され、「産業革命前からの地球平均気温上昇を 2℃より十分下方に保持。また、1.5℃に抑える努力を追及」すること等が世界共通の長期目標となりました。

我が国は、パリ協定に定める目標を踏まえ、2020 年 10 月に「2050 年カーボンニュートラル」を宣言し、2021 年 4 月に、2050 年カーボンニュートラルと整合的で、野心的な目標として、2030 年度において、温室効果ガス 46%削減（2013 年度比）を目指すこと、さらに 50%の高みに向けて挑戦を続けることを表明しました。

(4) 持続可能な開発目標 (SDGs) に向けた取組

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals)」は、国際的に直面している課題 (経済・社会・環境) すべてに幅広く対応した17の目標が設定され、2016年から2030年までの国際共通目標となります。17の目標のうち、少なくとも13が直接的に環境に関連 (エネルギーへのアクセス・持続可能な消費と生産・気候変動への対処・陸域生態系、森林管理、砂漠化への対処、生物多様性等) するものであり、残りの4つに関しても間接的ではあるものの環境に関連したものとなります。

我が国としても、気候変動、持続可能な消費と生産 (循環型社会形成の取組等) 等の分野において国内外における施策を積極的に展開していくことを表明しています。

1-2 計画策定の背景

地球温暖化問題が社会問題として大きく取り上げられるようになって久しく、その解決には地域における低炭素社会の構築に向けた取組の積み重ねが重要となります。

大衡村においては、これまで「地球温暖化対策推進実行計画」(第1次計画期間：平成13年度～17年度、第2次計画期間：平成19年度～23年度、第3次計画期間：平成24年度～28年度、第4次計画期間：平成29年度～令和4年度)を策定し、村の事務・事業について温暖化対策を推進してきました。

大衡村では、第4次実行計画の計画期間満了を受け、今後の本村の事務・事業に関してより積極的に温暖化対策を推進していくために、第5次実行計画を定めるものです。

1-3 実行計画の目的

本計画は「地球温暖化対策の推進に関する法律」第21条第1項に基づき、本村の事務・事業に関し、温室効果ガスの排出の抑制等の推進により、地球温暖化対策の推進を図ることを目的とします。

1-4 対象範囲

本計画の対象範囲は、本村が行う全ての事務・事業とし、出先機関を含めた全ての組織・施設を対象とします。ただし、指定管理者制度等により外部委託を実施している事務・事業は対象外としますが、温室効果ガスの排出量削減等の措置が可能なものについては、その受託者等に対して、必要な措置及び協力を要請することとします。

対象とする組織・施設は表1-1に示すとおりです。第5次実行計画においては、6施設が対象となります。

表 1-1 対象とする組織・施設

①役場庁舎
②福祉センター (平成27年4月より老人福祉センターから名称変更)
③公民館 (万葉研修センター)
④大衡小学校
⑤大衡中学校
⑥学校給食センター

1-5 基準年度・計画期間・目標年度

本計画の基準年度は以下のとおりです。

なお、計画期間中の社会情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて計画を見直すこととします。

基準年度：平成 25 年度
計画期間：令和 5 年度～令和 12 年度（8 年間）
目標年度：令和 12 年度

1-6 対象とする温室効果ガス

温室効果ガスは表 1-2 に示す 7 種ですが、宮城県ではそのうちの二酸化炭素(CO₂)による負荷が最も大きく、全体の 91.4%程度を占めています（平成 29 年度）。また、自動車の走行や廃棄物の焼却など、二酸化炭素(CO₂)を削減する取組は、他の温室効果ガスの削減にもつながる場合が多いことから、本計画では対象とする温室効果ガスとして、エネルギー起源二酸化炭素(CO₂)（以下、「CO₂」といいます。）を取り上げます。

表 1-2 温室効果ガス

ガス種類	人為的発生源	主な対策	対象
エネルギー起源 二酸化炭素 (CO ₂)	産業、民生、運輸部門などにおける燃料の燃焼に伴うものが全体の 9 割以上を占め、温暖化への影響が大きい。	エネルギー利用効率の向上やライフスタイルの見直しなど	○
非エネルギー起源 二酸化炭素 (CO ₂)	セメント製造、生石灰製造などの工業プロセスから主に発生。	エコセメントの普及など	×
メタン (CH ₄)	稲作、家畜の腸内発酵などの農業部門から出るものが半分を占め、廃棄物の埋立からも 2～3 割を占める。	埋立量の削減など	×
一酸化二窒素 (N ₂ O)	燃料の燃焼に伴うものが半分以上を占めるが、工業プロセスや農業からの排出もある。	高温燃焼、触媒の改良など	×
ハイドロフルオロカーボン (HFC)	エアゾール製品の噴射剤、カーエアコンや冷蔵庫の冷媒、断熱発泡剤などに使用。	回収、再利用、破壊の推進、代替物質、技術への転換等	×
パーフルオロカーボン (PFC)	半導体等製造用や電子部品などの不活性液体として使用。	製造プロセスでの回収等や、代替物質、技術への転換等	×
六ふっ化硫黄 (SF ₆)	変電設備に封入される電気絶縁ガスや半導体等製造用などとして使用。	(絶縁ガス)機器点検・廃棄時の回収、再利用、破壊等 (半導体)製造プロセスでの回収等や代替物質、技術への転換等	×
三ふっ化窒素 (NF ₃)	半導体製造でのドライエッチングや CVD 装置のクリーニングとして使用。	製造プロセスでの回収等や代替物質、技術への転換等	×

備考：「主な対策」は、将来的な技術開発の結果見込まれるものを含む。

第2章 温室効果ガス排出量の算定

2-1 排出量算定の対象活動

本計画では、表 2-1 に示す活動の内「燃料の使用」及び「他人から供給された電気の使用」を排出量算定の対象とします。

表 2-1 排出量算定の対象となる活動及び理由

活動内容	算定対象の是非	対象となる理由
燃料の使用	○	暖房の使用、自動車の走行、機械の稼働等に伴い燃料を使用しているため。
他人から供給された電気の使用	○	電気を使用しているため。
他人から供給された熱の使用	×	熱供給事業者等からの熱購入はないため。
土地利用変化に伴う草木の焼却	×	活動量の把握が技術的に困難であるため。
一般廃棄物の焼却	×	一般廃棄物焼却施設は存在していないため。
産業廃棄物の焼却	×	産業廃棄物焼却施設は存在していないため。

2-2 排出量算定の方法

排出量の算定は、「地方公共団体実行計画（事務事業編）策定・実施マニュアル（算定手法編）」（令和5年3月 環境省）（以下、「マニュアル」といいます。）に基づきました。

具体的には、以下に示すとおりです。

① 活動の種類ごとの算定

（燃料の使用に伴う排出量）＝（燃料使用量）×（排出係数）

（他人から供給された電気の使用に伴う排出量）＝（電気使用量）×（排出係数）

② 二酸化炭素排出量の算定

（二酸化炭素排出量）＝ Σ {（活動の種類ごとの排出量）}

（活動の種類について和をとる。）

第3章 第4次実行計画の評価

3-1 第4次実行計画の概要

(1) 算定対象期間

排出量の算定期間は、平成29年度～令和4年度までの6年間としました。

(2) 対象組織・施設

算定対象の組織・施設は、表3-1に示すとおり第4次実行計画の対象であった6施設としました。

表 3-1 算定対象とする組織・施設（第4次実行計画の対象）

①役場庁舎、②福祉センター、③公民館（万葉研修センター）、④大衡小学校、
⑤大衡中学校、⑥学校給食センター

(3) 排出係数

排出量の算定に使用した排出係数は、表3-2に示すとおりです。

表 3-2 排出係数

区分		排出係数
ガソリン		2.32 kg-CO ₂ /L
灯油		2.49 kg-CO ₂ /L
軽油		2.58 kg-CO ₂ /L
A重油		2.71 kg-CO ₂ /L
LPG		3.00 kg-CO ₂ /kg
電気 (東北電力株)	H29	0.521 kg-CO ₂ /kWh
	H30	0.522 kg-CO ₂ /kWh
	R1	0.519 kg-CO ₂ /kWh
	R2	0.476 kg-CO ₂ /kWh
	R3	0.496 kg-CO ₂ /kWh
	R4	(注) 0.496 kg-CO ₂ /kWh

注：令和4年度実績の電気の排出係数は公表前のため、令和3年度の排出係数を用いた。

3-2 排出量の算定結果

(1) 総排出量

平成9年度～令和4年度における、大衡村有公共施設からのCO₂排出量の算定結果を図3-1に示します。

直近の令和4年度の排出量は576,226kg-CO₂でした。本村がCO₂排出量の算定を始めた平成9年度以降、平成24年度までは増加傾向にありましたが、平成25年度以降は減少傾向にあります。

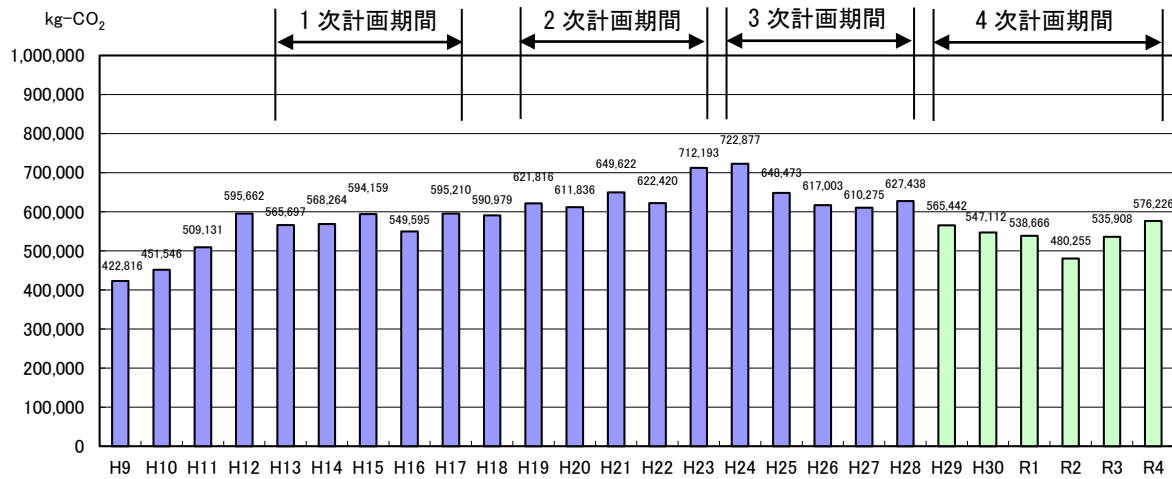


図 3-1 CO₂ 排出量の推移

(2) 組織・施設別内訳

平成9年度～令和4年度における、CO₂排出量の組織・施設別内訳を図3-2に示します。

直近の令和4年度では、最も排出量が多い施設は役場庁舎であり、全体の約30%を占めています。次いで排出量が多い施設は、大衡小学校が全体の約25%、大衡中学校及び学校給食センターが約20%程度となっています。

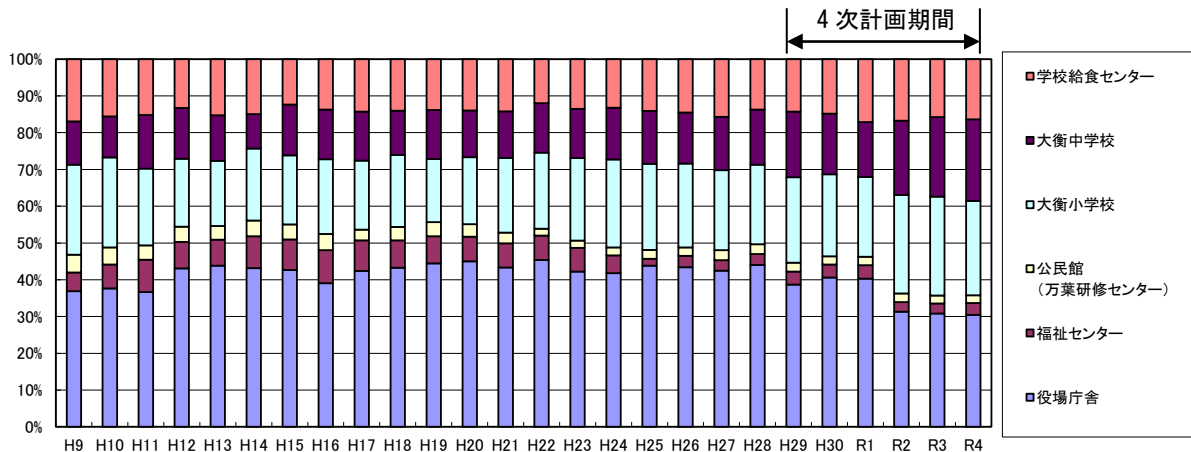


図 3-2 CO₂ 排出量の組織別・施設別内訳

(3) エネルギー別排出量

CO₂排出量のエネルギー別排出量を図 3-3 に示します。

直近の令和 4 年度においては、最も排出量が多いのは電気であり全体の約 80%を占めています。次いで A 重油が約 10%と続きます。エネルギー別の構成比の推移をみると、電気の占める割合が高まり、A 重油の占める割合が令和 2 年度以降減少していることがわかります。これは、役場庁舎の空調設備更新により A 重油から電気への燃料転換が行われたためと考えられます。

最も CO₂排出量の多い電気について、過去 6 年間の使用量及び CO₂排出係数を表 3-3 に示します。これをみると、電気の使用量は令和元年度までは減少していましたが、令和 2 年度以降、新型コロナウイルス感染症対策として、空調使用時の換気を実施したこと等により増加傾向にあります。また、排出係数は令和 2 年度までは小さくなっていましたが、令和 3 年度は大きくなっており、CO₂排出量は横ばいに推移していることがわかります。

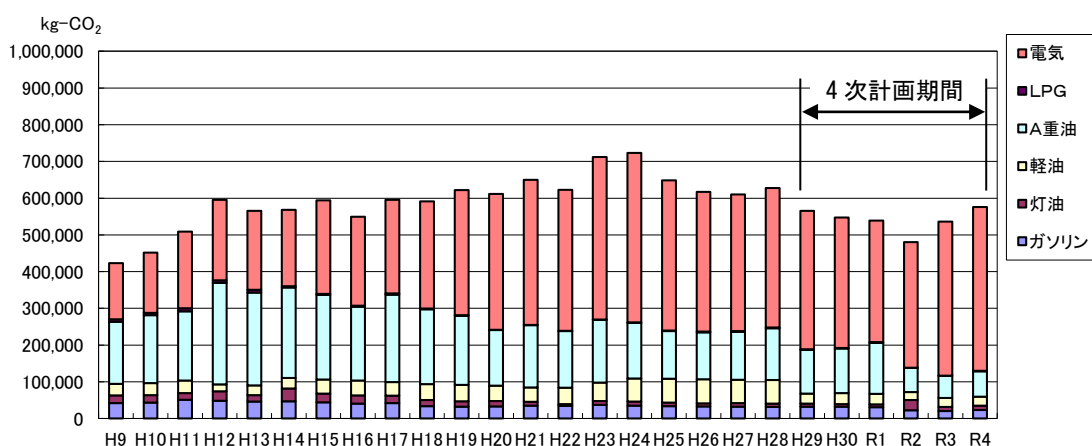


図 3-3 CO₂排出量のエネルギー別排出量

表 3-3 電気使用量及び排出係数

区分	電気使用量		排出係数	
	使用量 (kWh)	割合 (H29=100%)	排出係数 (kg-CO ₂ /kWh)	割合 (H29=100%)
H29	723,044	100.0%	0.521	100.0%
H30	679,688	94.0%	0.522	100.2%
R1	637,282	88.1%	0.519	99.6%
R2	718,417	99.4%	0.476	91.4%
R3	845,289	116.9%	0.496	95.2%
R4	899,920	124.5%	(注) 0.496	95.2%

注：令和 4 年度実績の電気の排出係数は公表前のため、令和 3 年度の排出係数を用いた。

3-3 第4次実行計画の目標

第4次実行計画では、令和4年度において平成25年度排出量(648,473 kg-CO₂)に対して9%削減した排出量(590,110kg-CO₂)とすることを目標としていました。しかし、福祉センターについては、平成25年度は改修工事のため閉鎖期間があったことから、平成24年度の排出量を当てはめて平成25年度の全体の排出量(671,486kg-CO₂)を算出し、排出目標も併せて見直しました。見直した排出目標を表3-4に示します。

目標年度である令和4年度の目標排出量は、611,052kg-CO₂となります。

表 3-4 施設別の各年度目標値(第4次実行計画)

区分	排出量 (kg-CO ₂)						
	H25 基準年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4 目標年度
役場庁舎	284,353	280,088	275,822	271,557	267,292	263,027	258,761
福祉センター	35,118	34,592	34,065	33,538	33,011	32,485	31,958
公民館(万葉研修センター)	15,388	15,157	14,926	14,695	14,464	14,233	14,003
大衡小学校	152,034	149,754	147,473	145,193	142,912	140,632	138,351
大衡中学校	93,434	92,033	90,631	89,230	87,828	86,427	85,025
学校給食センター	91,158	89,791	88,424	87,056	85,689	84,322	82,954
合計	671,486	661,413	651,341	641,269	631,197	621,124	611,052

注：福祉センターは、平成24年度の排出量を平成25年度の排出量に当てはめた。

3-4 総排出量の評価

令和4年度の排出量は576,226kg-CO₂であり、平成25年度(基準年度)から14%の削減となり、排出目標を達成しました。

第4次実行計画の期間中の排出量は、すべての年度で基準年度を下回る結果となりました。

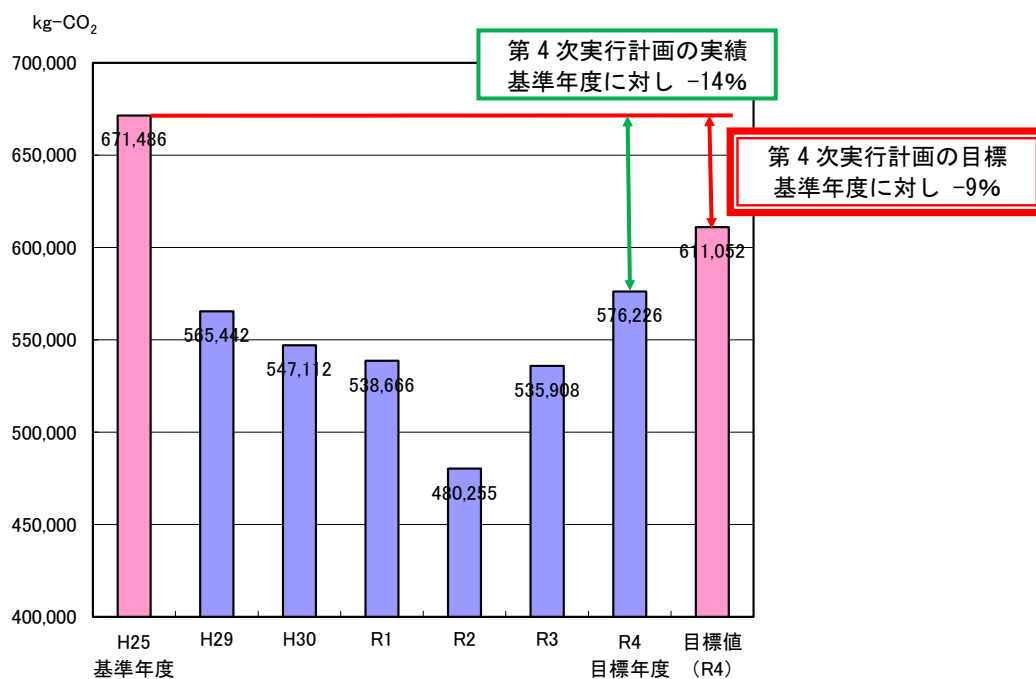


図 3-4 第4次実行計画期間中のCO₂排出量

3-5 各年度の総排出量の評価

第4次実行計画では、令和4年度において平成25年度排出量に対して9%削減することを排出目標として設定しました。そのため、各年度の目標排出量は、6年間で1.5%ずつ段階的に削減していくこととして進めました。

ここで、各年度の評価を表3-5に示します。これをみると、平成29年度から令和4年度までの排出量は、各年度の目標排出量を下回る結果となり、目標は達成となりました。

目標値の達成の背景には、LED照明への更新等による省エネルギー化や燃料転換の取組が影響したものと考えられます。

表 3-5 各年度の目標達成状況

区分	排出量	各年度の 目標排出量	削減割合 (対基準年度比)	各年度の目標 排出量比	評価
	(kg-CO ₂)	(kg-CO ₂)	(H25=100%)	(各年度の目標値=100%)	
H25(基準年度)	671,486	-	100.0%	100.0%	-
H29	565,442	661,413	98.5%	85.5%	達成
H30	547,112	651,341	97.0%	84.0%	達成
R1	538,666	641,269	95.5%	84.0%	達成
R2	480,255	631,197	94.0%	76.1%	達成
R3	535,908	621,124	92.5%	86.3%	達成
R4(目標年度)	576,226	611,052	91.0%	94.3%	達成

注1：評価結果は以下の通りです。

達成…排出量が各年度の目標排出量より減少（各年度の目標排出量比が100%以下）

× …排出量が各年度の目標排出量より増加（各年度の目標排出量比が100%より大きい）

注2：福祉センターは、平成24年度の排出量を平成25年度の排出量に当てはめた。

3-6 組織・施設別の評価

組織・施設別内訳の目標達成状況を表 3-6 に示します。

基準年度排出量に対し、目標年度の排出量が減少したのは 4 施設（役場庁舎、福祉センター、公民館（万葉研修センター）、大衡小学校）でした。このうち大衡小学校を除く 3 施設（役場庁舎、福祉センター、公民館（万葉研修センター））は、目標年度の排出量が基準年度排出量より 9%以上削減されており、目標を達成していました。

表 3-6 組織・施設別内訳の目標達成状況

区分	排出量 (kg-CO ₂)							基準 年度比	評価
	H25 基準年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4 目標年度		
役場庁舎	284,353	218,861	222,232	217,058	150,426	165,085	175,589	62%	達成
福祉センター	35,118	20,063	19,344	19,929	12,448	14,615	18,410	52%	達成
公民館 (万葉研修センター)	15,388	13,626	12,080	12,258	11,262	11,765	12,335	80%	達成
大衡小学校	152,034	131,223	122,286	116,890	128,746	144,260	147,726	97%	△
大衡中学校	93,434	100,972	90,193	80,284	96,924	115,814	127,968	137%	×
学校給食センター	91,158	80,697	80,977	92,246	80,450	84,369	94,199	103%	×
合計	671,486	565,442	547,112	538,666	480,255	535,908	576,226	86%	達成

注 1：評価結果は以下の通りです。

達成…目標年度の排出量が基準年度の排出量より 9%以上減少（基準年度比 \leq 91%）

△ …目標年度の排出量が基準年度の排出量より減少したが、9%の目標に達していない。

（91% $<$ 基準年度比 \leq 100%）

× …目標年度の排出量が基準年度の排出量より増加（基準年度比 $>$ 100%）

注 2：福祉センターは、平成 24 年度の排出量を平成 25 年度の排出量に当てはめた。

3-7 組織・施設別の各年度の評価

組織・施設別内訳の各年度の目標達成状況を表 3-7、表 3-8 に示します。なお、基準年度比 9% 削減の目標に対し、各年度の目標排出量は、6 年間で 1.5% ずつ段階的に削減していくこととして進めました。

表 3-7 組織・施設別内訳の各年度目標達成状況-1

区分	役場庁舎				
	排出量	各年度の 目標排出量	削減割合 (対基準年度比)	各年度の目標 排出量比	評価
	(kg-CO ₂)	(kg-CO ₂)	(H25=100%)	(各年度の目標値=100%)	
H25(基準年度)	284,353	-	100.0%	100.0%	-
H29	218,861	280,088	98.5%	78.1%	達成
H30	222,232	275,822	97.0%	80.6%	達成
R1	217,058	271,557	95.5%	79.9%	達成
R2	150,426	267,292	94.0%	56.3%	達成
R3	165,085	263,027	92.5%	62.8%	達成
R4(目標年度)	175,589	258,761	91.0%	67.9%	達成

区分	福祉センター				
	排出量	各年度の 目標排出量	削減割合 (対基準年度比)	各年度の目標 排出量比	評価
	(kg-CO ₂)	(kg-CO ₂)	(H25=100%)	(各年度の目標値=100%)	
H25(基準年度)	35,118	-	100.0%	100.0%	-
H29	20,063	34,592	98.5%	58.0%	達成
H30	19,344	34,065	97.0%	56.8%	達成
R1	19,929	33,538	95.5%	59.4%	達成
R2	12,448	33,011	94.0%	37.7%	達成
R3	14,615	32,485	92.5%	45.0%	達成
R4(目標年度)	18,410	31,958	91.0%	57.6%	達成

区分	公民館(万葉研修センター)				
	排出量	各年度の 目標排出量	削減割合 (対基準年度比)	各年度の目標 排出量比	評価
	(kg-CO ₂)	(kg-CO ₂)	(H25=100%)	(各年度の目標値=100%)	
H25(基準年度)	15,388	-	100.0%	100.0%	-
H29	13,626	15,157	98.5%	89.9%	達成
H30	12,080	14,926	97.0%	80.9%	達成
R1	12,258	14,695	95.5%	83.4%	達成
R2	11,262	14,464	94.0%	77.9%	達成
R3	11,765	14,233	92.5%	82.7%	達成
R4(目標年度)	12,335	14,003	91.0%	88.1%	達成

注 1：評価結果は以下の通りです。

達成…排出量が各年度の目標排出量より減少（各年度の目標排出量比が 100% 以下）

× …排出量が各年度の目標排出量より増加（各年度の目標排出量比が 100% より大きい）

注 2：福祉センターは、平成 24 年度の排出量を平成 25 年度の排出量に当てはめた。

表 3-8 組織・施設別内訳の各年度目標達成状況-2

区分	大衡小学校				
	排出量	各年度の 目標排出量	削減割合 (対基準年度比)	各年度の目標 排出量比	評価
	(kg-CO ₂)	(kg-CO ₂)	(H25=100%)	(各年度の目標値=100%)	
H25(基準年度)	152,034	-	100.0%	100.0%	-
H29	131,223	149,754	98.5%	87.6%	達成
H30	122,286	147,473	97.0%	82.9%	達成
R1	116,890	145,193	95.5%	80.5%	達成
R2	128,746	142,912	94.0%	90.1%	達成
R3	144,260	140,632	92.5%	102.6%	×
R4(目標年度)	147,726	138,351	91.0%	106.8%	×

区分	大衡中学校				
	排出量	各年度の 目標排出量	削減割合 (対基準年度比)	各年度の目標 排出量比	評価
	(kg-CO ₂)	(kg-CO ₂)	(H25=100%)	(各年度の目標値=100%)	
H25(基準年度)	93,434	-	100.0%	100.0%	-
H29	100,972	92,033	98.5%	109.7%	×
H30	90,193	90,631	97.0%	99.5%	達成
R1	80,284	89,230	95.5%	90.0%	達成
R2	96,924	87,828	94.0%	110.4%	×
R3	115,814	86,427	92.5%	134.0%	×
R4(目標年度)	127,968	85,025	91.0%	150.5%	×

区分	学校給食センター				
	排出量	各年度の 目標排出量	削減割合 (対基準年度比)	各年度の目標 排出量比	評価
	(kg-CO ₂)	(kg-CO ₂)	(H25=100%)	(各年度の目標値=100%)	
H25(基準年度)	91,158	-	100.0%	100.0%	-
H29	80,697	89,791	98.5%	89.9%	達成
H30	80,977	88,424	97.0%	91.6%	達成
R1	92,246	87,056	95.5%	106.0%	×
R2	80,450	85,689	94.0%	93.9%	達成
R3	84,369	84,322	92.5%	100.1%	×
R4(目標年度)	94,199	82,954	91.0%	113.6%	×

注1：評価結果は以下の通りです。

達成…排出量が各年度の目標排出量より減少（各年度の目標排出量比が100%以下）

× …排出量が各年度の目標排出量より増加（各年度の目標排出量比が100%より大きい）

3-8 エネルギー別の評価

エネルギー別内訳の目標達成状況を表 3-9 に示します。

基準年度排出量に対し、目標年度の排出量が減少したエネルギーは 4 種類（ガソリン、軽油、A 重油、LPG）でした。これらのエネルギーは、目標年度の排出量が基準年度排出量より 9%以上削減され、目標を達成していました。一方で排出量が増加した 2 種類（灯油、電気）に関しては、役場庁舎に係る空調設備の A 重油から電気へのエネルギーの転換、新型コロナウイルス感染症対策として空調使用時の換気を実施したことにより、使用量が増加したと考えられます。

表 3-9 エネルギー種類別の目標達成状況

区分	排出量 (kg-CO ₂)							基準 年度比	評価
	H25 基準年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4 目標年度		
ガソリン	33,605	32,597	32,045	30,854	22,605	20,869	23,562	70%	達成
灯油	10,635	8,200	7,388	7,580	27,686	10,829	11,432	107%	×
軽油	65,165	27,359	29,712	29,087	21,572	24,379	24,789	38%	達成
A 重油	140,107	119,240	121,950	138,752	65,853	59,891	68,563	49%	達成
LPG	1,884	1,340	1,220	1,645	573	678	1,520	81%	達成
電気	420,090	376,706	354,797	330,749	341,966	419,263	446,360	106%	×
合計	671,486	565,442	547,112	538,666	480,255	535,908	576,226	86%	達成

注 1：評価結果は以下の通りです。

達成…目標年度の排出量が基準年度の排出量より 9%以上減少（基準年度比 \leq 91%）

△ …目標年度の排出量が基準年度の排出量より減少したが、9%の目標に達していない。
(91% $<$ 基準年度比 \leq 100%)

× …目標年度の排出量が基準年度の排出量より増加（基準年度比 $>$ 100%）

注 2：福祉センターは、平成 24 年度の排出量を平成 25 年度の排出量に当てはめた。

3-9 エネルギー別の各年度の評価

エネルギー別内訳の各年度の目標達成状況を表 3-10、表 3-11 に示します。なお、基準年度比 9%削減の目標に対し、各年度の目標排出量は、6 年間で 1.5%ずつ段階的に削減していくこととして進めました。

表 3-10 エネルギー種類別の各年度の目標達成状況-1

区分	ガソリン				
	排出量	各年度の 目標排出量	削減割合 (対基準年度比)	各年度の目標 排出量比	評価
	(kg-CO ₂)	(kg-CO ₂)	(H25=100%)	(各年度の目標値=100%)	
H25(基準年度)	33,605	-	100.0%	100.0%	-
H29	32,597	33,101	98.5%	98.5%	達成
H30	32,045	32,597	97.0%	98.3%	達成
R1	30,854	32,093	95.5%	96.1%	達成
R2	22,605	31,589	94.0%	71.6%	達成
R3	20,869	31,084	92.5%	67.1%	達成
R4(目標年度)	23,562	30,580	91.0%	77.0%	達成

区分	灯油				
	排出量	各年度の 目標排出量	削減割合 (対基準年度比)	各年度の目標 排出量比	評価
	(kg-CO ₂)	(kg-CO ₂)	(H25=100%)	(各年度の目標値=100%)	
H25(基準年度)	10,635	-	100.0%	100.0%	-
H29	8,200	10,475	98.5%	78.3%	達成
H30	7,388	10,316	97.0%	71.6%	達成
R1	7,580	10,156	95.5%	74.6%	達成
R2	27,686	9,997	94.0%	277.0%	×
R3	10,829	9,837	92.5%	110.1%	×
R4(目標年度)	11,432	9,678	91.0%	118.1%	×

区分	軽油				
	排出量	各年度の 目標排出量	削減割合 (対基準年度比)	各年度の目標 排出量比	評価
	(kg-CO ₂)	(kg-CO ₂)	(H25=100%)	(各年度の目標値=100%)	
H25(基準年度)	65,165	-	100.0%	100.0%	-
H29	27,359	64,188	98.5%	42.6%	達成
H30	29,712	63,210	97.0%	47.0%	達成
R1	29,087	62,233	95.5%	46.7%	達成
R2	21,572	61,255	94.0%	35.2%	達成
R3	24,379	60,278	92.5%	40.4%	達成
R4(目標年度)	24,789	59,300	91.0%	41.8%	達成

注1：評価結果は以下の通りです。

達成…排出量が各年度の目標排出量より減少（各年度の目標排出量比が 100%以下）

× …排出量が各年度の目標排出量より増加（各年度の目標排出量比が 100%より大きい）

注2：福祉センターは、平成 24 年度の排出量を平成 25 年度の排出量に当てはめた。

表 3-11 エネルギー種類別の各年度の目標達成状況-2

区分	A 重油				
	排出量	各年度の 目標排出量	削減割合 (対基準年度比)	各年度の目標 排出量比	評価
	(kg-CO ₂)	(kg-CO ₂)	(H25=100%)	(各年度の目標値=100%)	
H25(基準年度)	140,107	-	100.0%	100.0%	-
H29	119,240	138,005	98.5%	86.4%	達成
H30	121,950	135,904	97.0%	89.7%	達成
R1	138,752	133,802	95.5%	103.7%	×
R2	65,853	131,701	94.0%	50.0%	達成
R3	59,891	129,599	92.5%	46.2%	達成
R4(目標年度)	68,563	127,497	91.0%	53.8%	達成

区分	LPG				
	排出量	各年度の 目標排出量	削減割合 (対基準年度比)	各年度の目標 排出量比	評価
	(kg-CO ₂)	(kg-CO ₂)	(H25=100%)	(各年度の目標値=100%)	
H25(基準年度)	1,884	-	100.0%	100.0%	-
H29	1,340	1,856	98.5%	72.2%	達成
H30	1,220	1,828	97.0%	66.8%	達成
R1	1,645	1,799	95.5%	91.4%	達成
R2	573	1,771	94.0%	32.3%	達成
R3	678	1,743	92.5%	38.9%	達成
R4(目標年度)	1,520	1,715	91.0%	88.7%	達成

区分	電気				
	排出量	各年度の 目標排出量	削減割合 (対基準年度比)	各年度の目標 排出量比	評価
	(kg-CO ₂)	(kg-CO ₂)	(H25=100%)	(各年度の目標値=100%)	
H25(基準年度)	420,090	-	100.0%	100.0%	-
H29	376,706	413,789	98.5%	91.0%	達成
H30	354,797	407,487	97.0%	87.1%	達成
R1	330,749	401,186	95.5%	82.4%	達成
R2	341,966	394,885	94.0%	86.6%	達成
R3	419,263	388,583	92.5%	107.9%	×
R4(目標年度)	446,360	382,282	91.0%	116.8%	×

注1：評価結果は以下の通りです。

達成…排出量が各年度の目標排出量より減少（各年度の目標排出量比が100%以下）

× …排出量が各年度の目標排出量より増加（各年度の目標排出量比が100%より大きい）

注2：福祉センターは、平成24年度の排出量を平成25年度の排出量に当てはめた。

3-10 その他の取組

大衡村では、平成 23 年度から公共施設への再生エネルギー設備の導入を実施してきました。導入実績は、表 3-12 に示すとおりです。第 4 次計画期間における太陽光発電設備の設置の効果は、表 3-13 に示すとおり、5 施設合わせて年間約 38 t の CO₂ 削減効果があります。

表 3-12 再生エネルギー導入実績

番号	設置場所	設備規模	設置年度
1	役場庁舎	屋上 20kW	平成 23 年度
2	公民館(万葉研修センター)	屋上 10kW	平成 23 年度
3	福祉センター	10kW、蓄電池 15kWh	平成 25 年度
4	大衡小学校	10kW、蓄電池 15kWh	平成 27 年度
5	大衡中学校	10kW、蓄電池 15kWh	平成 27 年度

表 3-13 太陽光発電設備設置による効果

区分	発電実績 (kWh)	CO ₂ 削減量 (kg-CO ₂)	各施設全体の排出量 (kg-CO ₂)	効果試算	
				(%)	
役場庁舎	平成29年度(4月～3月)	26,576.40	13,846	218,861	6.3
	平成30年度(4月～3月)	26,254.80	13,705	222,232	6.2
	令和1年度(4月～3月)	27,257.30	14,147	217,058	6.5
	令和2年度(4月～3月)	24,911.80	11,858	150,426	7.9
	令和3年度(4月～3月)	25,918.10	12,855	165,085	7.8
	令和4年度(4月～3月)	26,551.10	13,169	175,589	7.5
公民館 (万葉研修センター)	平成29年度(4月～3月)	8,180.40	4,262	13,626	31.3
	平成30年度(4月～3月)	10,665.50	5,567	12,080	46.1
	令和1年度(4月～3月)	10,491.50	5,445	12,258	44.4
	令和2年度(4月～3月)	9,302.70	4,428	11,262	39.3
	令和3年度(4月～3月)	9,133.10	4,530	11,765	38.5
	令和4年度(4月～3月)	10,064.40	4,992	12,335	40.5
福祉センター	平成30年度(4月～3月)	14,546.50	7,593	19,344	39.3
	令和1年度(4月～3月)	14,817.30	7,690	19,929	38.6
	令和2年度(4月、5月、12月～3月)	6,909.20	3,289	12,448	26.4
	令和3年度(4月～12月)	10,814.00	5,364	14,615	36.7
	令和4年度(6月～3月)	10,938.50	5,425	18,410	29.5
大衡小学校	平成29年度(4月～3月)	12,239.90	6,377	131,223	4.9
	平成30年度(4月～3月)	12,239.90	6,389	122,286	5.2
	令和1年度(4月～3月)	12,239.90	6,353	116,890	5.4
	令和2年度(4月～3月)	12,239.90	5,826	128,746	4.5
	令和3年度(4月～3月)	12,239.90	6,071	144,260	4.2
	令和4年度(4月～3月)	12,239.90	6,071	147,726	4.1
大衡中学校	平成29年度(4月～3月)	13,173.50	6,863	100,972	6.8
	平成30年度(4月～3月)	13,173.50	6,877	90,193	7.6
	令和1年度(4月～3月)	13,173.50	6,837	80,284	8.5
	令和2年度(4月～3月)	13,173.50	6,271	96,924	6.5
	令和3年度(4月～3月)	13,173.50	6,534	115,814	5.6
	令和4年度(4月～3月)	13,173.50	6,534	127,968	5.1

注1：効果の試算は、CO₂削減量を各施設全体の排出量で除して算出した。

注2：大衡小学校、大衡中学校は第4次計画期間中の発電量が未計測であったため、平成28年度(4月～3月)の発電実績値を当てはめた。

第4章 削減目標の設定

4-1 将来排出量の予測

令和 12 年度までの CO₂ 排出量の予測値を図 4-1 に示します。

平成 25 年度から令和 4 年度までのエネルギー別消費量の傾向を分析し、今後は新型コロナウイルス感染症流行前の消費傾向で推移すると仮定して排出量を算出した結果、大衡村の CO₂ 排出量は次年度以降微減傾向を呈し、第 5 次実行計画の最終年度にあたる令和 12 年度では 399,838kg-CO₂ と予測されます。これは、基準年度（平成 25 年度排出量）に対し 40%削減となります。

エネルギー別の内訳は図 4-2 に示すとおりです。エネルギー別排出量の構成比は、これまでと大きな変化は無く、電気が約 80%を占めます。

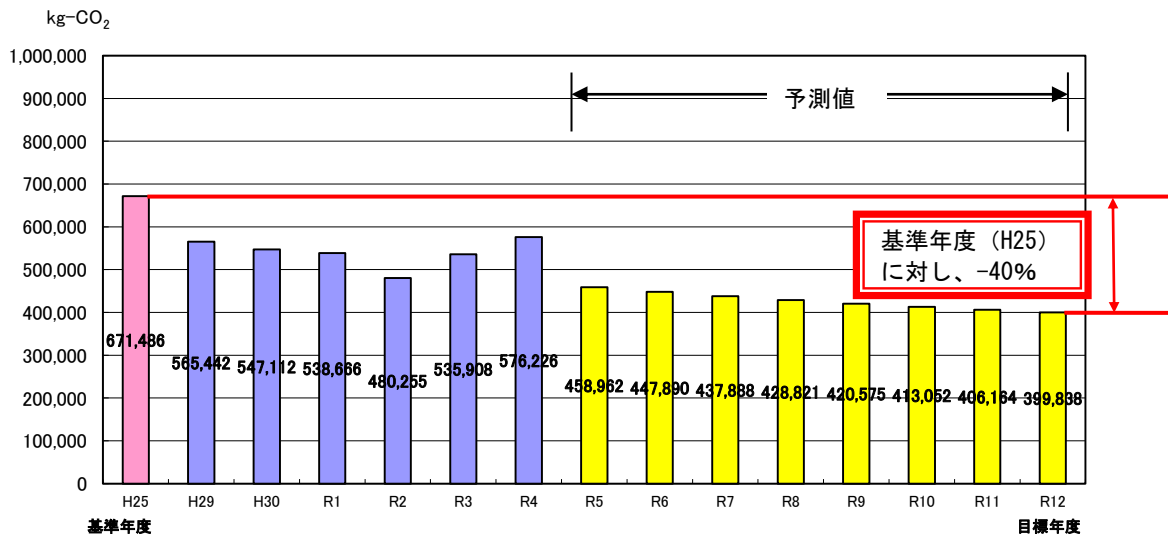


図 4-1 CO₂ 排出量の予測値

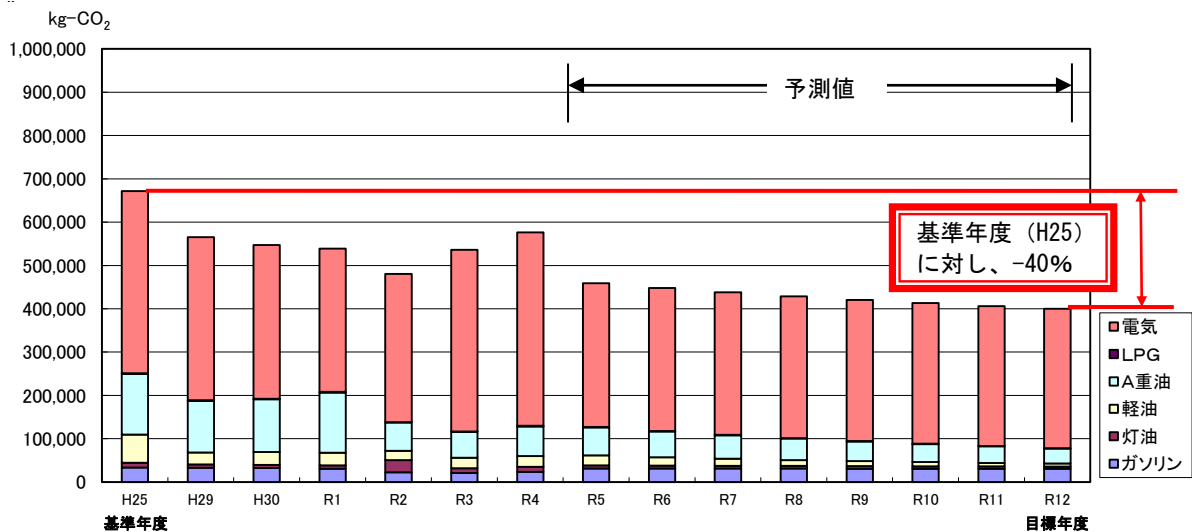


図 4-2 CO₂ 排出量の予測値 (エネルギー別)

4-2 目標設定

(1) 基本的な考え方

我が国においては、2020年10月に2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」を目指すことを宣言し、中期目標として2030年度において、温室効果ガスを2013年度から46%削減することとし、さらに50%の高みに向けて、挑戦を続けていくことが示されました。

本村においても、地域から地球温暖化防止に向けた取組を積み重ね、環境保全に貢献していく考えより、中長期的な観点からは国の削減目標に準じて取組を推進していくこととします。

そのため、第5次実行計画においては、中期的目標として、国の中期目標（2030年度に2013年度比50%削減）を踏まえつつ削減目標を設定します。

(2) 具体的目標

第5次実行計画の目標として以下を掲げます。

基準年度である平成25年度排出量が671,486kg-CO₂であることから、令和12年度に関しては、50%削減の335,743 kg-CO₂の排出量を目標とします。また、参考として各施設における第5次実行計画の最終年度（令和12年度）の目標値を表4-1に示します。

令和12年度の温室効果ガス排出量を平成25年度比で50%削減

表 4-1 施設別の目標値（参考）

kg-CO₂

区分	基準年度 H25 (A)	目標値 R12 (B)		参考（今後必要な削減量）			
		基準 年度比		R4 実績値 (C)	基準 年度比	(B)と(C) の差	基準 年度比
役場庁舎	284,353	142,177	50%	175,589	62%	33,412	12%
福祉センター	35,118	17,559	50%	18,410	52%	851	2%
公民館(万葉研修センター)	15,388	7,694	50%	12,335	80%	4,641	30%
大衡小学校	152,034	76,017	50%	147,726	97%	71,709	47%
大衡中学校	93,434	46,717	50%	127,968	137%	81,251	87%
学校給食センター	91,158	45,579	50%	94,199	103%	48,620	53%
合計	671,486	335,743	50%	576,226	86%	240,483	36%

4-3 措置の目標

(1) 本村における温室効果ガス排出量の削減対策

本村における温室効果ガス排出量の削減対策として、補助事業や PPA 事業（電力購入契約）等の活用を検討しながら省エネ・再エネ設備導入等を検討していきます。

①再生可能エネルギーの導入

本村が保有する建築物及び土地において、太陽光発電等の再生可能エネルギーの最大限の導入を図ることを目指します。また、自家消費型の太陽光発電システムと蓄電池を併せて活用することで、発電した電力を効率的に利用できるだけでなく、災害時に独立したエネルギー源としての役割を担うこともできます。

②省エネルギー設備等の導入

村有建築物の新築、改築等をする際には、断熱性能の高い複層ガラスや樹脂サッシ、空気調和設備その他の機械換気設備、給湯設備等の導入による省エネルギー対策を徹底するほか、建物の ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）化や省エネルギー基準への適合化を含め検討していきます。また、インバータ化、LED 照明や高効率ランプが導入されていない既存施設においても、積極的に導入していきます。

③電気自動車等の導入

低公害車・低燃費車（燃料電池車、電気自動車（超小型電気自動車）、ハイブリッド車等）を積極的に導入します。

④再生可能エネルギー由来電力への切り替え

本村の CO₂ 排出量の約 80% を占める電気に関して、再生可能エネルギー由来の電力への切り替えを積極的に検討していきます。

⑤働き方改革

計画的な定時退庁の実施による超過勤務の縮減、休暇の取得促進、テレワークの推進、ウェブ会議システムの活用等、電気使用量の削減にもつながる効率的な勤務体制の推進に努めます。

(2) 職員による温室効果ガス排出抑制の取組

職員による温室効果ガス排出抑制に向けた取組は、以下の 2 つに分けられます。

本村において、直接的な取組、間接的な取組の双方の積極的な推進により、目標達成を目指します。

○温室効果ガスの排出抑制対策に 直接的に資する取組

自らの事務・事業から排出される温室効果ガス総排出量削減に効果のある取組

○温室効果ガスの排出抑制対策に 間接的に資する取組

社会全体からみて、温室効果ガス総排出量削減に効果のある取組

○直接的な取組

大衡村有公共施設の活動の特徴をふまえ、各人が自主的に実行可能な取組内容を設定します。取組内容は、表 4-2 に示したとおりです。

表 4-2 直接的な取組内容

財やサービスの購入・使用に関する取組		
電気使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ○使用していない機器は主電源から切るようにします。 ○事務用機器を省エネモードに設定し、無駄な電力消費がないよう配慮します。 ○室内の点灯には無駄がないように配慮します。 ○照度を適切に設定し、明るすぎないようにします。 ○ランプ・反射板等を定期的に清掃します。 ○昼休みの消灯を徹底します。 ○空調設備に関して、AI(人工知能)技術の導入により運転の効率化を図ります。 ○ブラインドやカーテンを効率的に利用し、断熱性の向上に努めます。 ○夏場はグリーンカーテンを設置し冷房効果を高めます。 ○自然光をできるだけ採り入れるよう工夫します。 ○適切な電気使用を再掲示し、施設の利用者にも協力を呼びかけます。 	
燃料使用量の削減	ガソリン 軽油	<ul style="list-style-type: none"> ○車両を効率的に利用するよう努めます。 ○経済運転の徹底、定期的な車両整備を実施します。 (アイドリングストップ、空ふかし抑制、急発進・急加速抑制、不用物の不積載、空気圧の調整等) ○最適な経路を選択し効率的な走行を行います。
	灯油	<ul style="list-style-type: none"> ○暖房は 20℃に設定し、気温が上昇する昼間は使用を抑制します。 ○ブラインドやカーテンを効率的に利用し、断熱性の向上に努めます。 ○自然光をできるだけ採り入れるよう工夫します。 ○適切な機器使用を再掲示し、施設の利用者にも協力を呼びかけます。 ○機器のメンテナンス・清掃を定期的に行い、機器性能を保ちます。
	A 重油	<ul style="list-style-type: none"> ○機器のメンテナンス・清掃を定期的に行い、機器性能を保ちます。
	液化天然 ガス(LPG)	<ul style="list-style-type: none"> ○ガスコンロ、湯沸し器の効率的な使用を行います。 (種火の止栓、湯を沸かす時やポットへの給水には、湯沸し器の湯を利用する等) ○機器のメンテナンス・清掃を定期的に行い、機器性能を保ちます。

○間接的な取組

各人が自主的に実行可能な取組内容を表 4-3 のとおり設定します。

表 4-3 間接的な取組内容

財やサービスの購入・使用に関する取組	
紙使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ○両面コピーや縮小コピーを活用し、用紙使用量の削減を行います。また、タブレット端末等の導入により、会議資料等のペーパーレス化に努めます。 ○用紙使用量の削減についての配慮を再掲示し、職員の意識を高めます。 ○必要部数をあらかじめ確認し、必要最低限の部数を印刷します。
再生紙等の使用徹底	<ul style="list-style-type: none"> ○コピー用紙はカラーコピー用紙を含め、すべて再生紙を使用します。 ○用紙は古紙配合率及び白色度に配慮した製品を選定します。 ○森林認証紙を使用します。
用紙の再資源化	<ul style="list-style-type: none"> ○シュレッダーの使用は、秘密文書等の廃棄の場合に限定します。 ○他から届いた郵便物等の封筒は再利用します。 ○古紙の回収を行います。
再生品の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○トイレトーパー、ティッシュペーパー等の消耗品は、古紙配合率 100%のものにします。 ○エコマーク、グリーンマーク、国の推奨リスト、グリーン購入ネットワークガイドライン等の認証を受けた製品を導入していきます。
建築物の建築・管理等に関する取り組み	
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ○トイレへ擬音発生器を設置します。 ○蛇口に節水コマを取り付け、水量の調節を図ります。
水の有効利用	<ul style="list-style-type: none"> ○雨水を利用し、植木の水やり等に使用します。
周辺や屋上の緑化	<ul style="list-style-type: none"> ○敷地内の緑化を積極的に推進していきます。
その他の事務・事業に関する取り組み	
ごみの分別	<ul style="list-style-type: none"> ○3R(ごみの排出抑制・再利用・再生利用)を推進します。 ○廃プラスチック類の分別・リサイクルを行います。
廃棄物の減量	<ul style="list-style-type: none"> ○生ゴミ処理機器等により、可燃ごみの減量化・生ごみの資源化を図ります。 ○物品購入時は簡易包装を指定し、過剰な包装はしないようにします。 ○詰め替え可能な製品を優先的に導入します。 ○再利用またはリサイクルしやすい製品を優先的に導入します。 ○建設廃棄物の発生量を抑制するよう努めます。 ○建設廃棄物等を再資源化した建設資材を使用します。

第5章 計画の推進と点検・評価方法

5-1 計画の推進

本計画は、計画期間中の点検・見直しを毎年度実施し、最終的な目標年度に総排出量についての数値目標を達成することを目的としています。

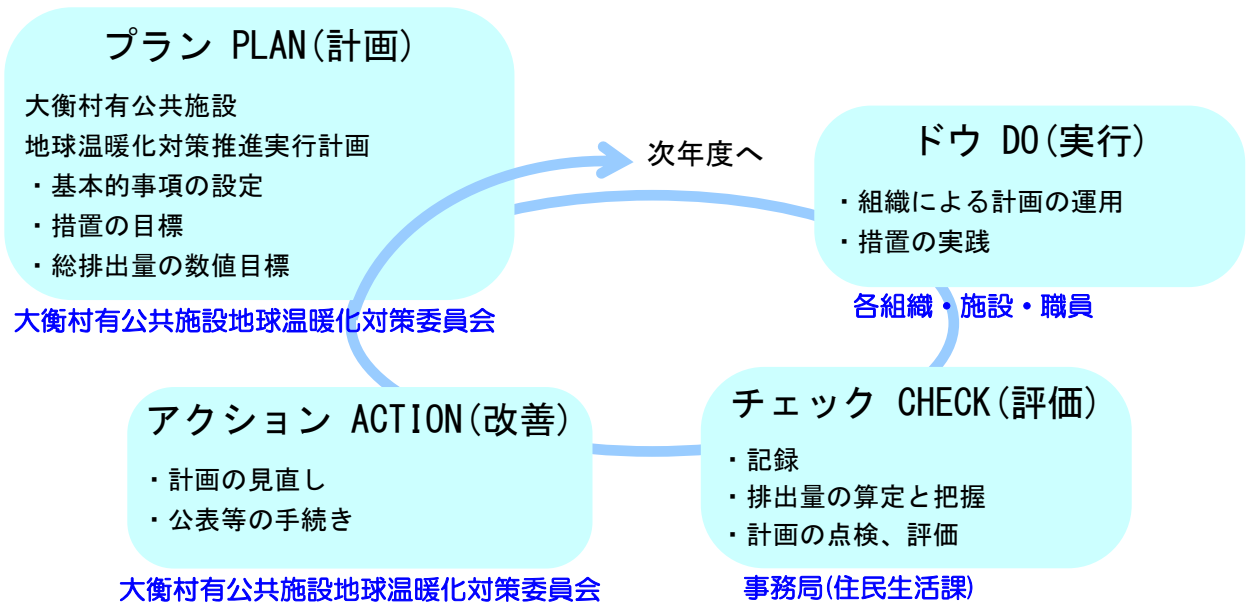


図 5-1 計画の流れ（PDCAサイクルの仕組み）

(1) 推進体制

本計画の推進体制としては、『大衡村有公共施設地球温暖化対策委員会』を計画策定後も活用することとし、事務局との連携をとりながら、数値目標の達成状況の把握、実施状況の点検等、計画の進行管理を行っていきます。なお幹事については、毎年度、各課・室・局から担当職員を各1名選出するものとします。

表 5-1 『大衡村有公共施設地球温暖化対策委員会』の組織構成

役職名	担当課及び職名
委員長	村長
副委員長	副村長、教育長
委員	各課（局・室）長
幹事	各課（局・室）担当職員
事務局	住民生活課

(2) 各職員や組織の役割

- ① 各職員は、それぞれの所属する組織・施設で取り組むべき項目について重点的に取り組むとともに、必要に応じて組織・施設内での検討や事務局への提案を行います。
- ② 毎月の実行状況は、これまでどおり、チェックシート※を記入することにより把握します。その結果、実行状況が良くない項目については、随時見直しを行います。
- ③ 地球温暖化に対する国内及び国際的な動向に関心をもち、本計画に対する理解を進んで深めていきます。
- ④ 職場での取組により環境意識を培い、日常生活においても環境配慮に努めます。

※チェックシート記入方法

組織・施設ごとに、チェックシートに月毎の使用量を記入します。また、可能な場合は前年度との比較を行い、当年度の実行状況の確認をします。前年度データより使用量が多い項目については、組織・施設内で取り組み項目の見直しを行い、改善策を講じます。

(3) 職員への普及・啓発

本計画の達成状況は、概要版資料を各課（局・室）に配布することにより、全職員への普及を図ります。

新入職員については、研修時に本計画の目的と内容、取組に関する情報についての教育を行い、意識の啓発を促します。

5-2 計画の点検・評価方法

本計画は、計画期間中の点検・見直しを毎年度実施し、最終的な目標年度に総排出量についての数値目標を達成することを目的としています。

(1) 点検方法

本計画の達成状況の点検は、環境点検調査票(環境負荷調査票)を用いて、毎年度 6 月中旬を目途に行います。環境点検調査票には前年度分の燃料等使用量及び取組項目実行状況等を記入し、7 月末までに事務局(住民生活課)に提出します。調査項目は以下のとおりとします。

- ・電気、LPG、ガソリン、灯油、軽油、重油等の使用量

(2) 評価方法

事務局は、提出された環境点検調査票に基づいて本計画の達成状況を把握し、委員会により各年の取組状況を点検・評価し、本計画の総合的かつ効果的な推進を図ります。

(3) 計画の見直し

本計画を推進する上で、削減目標及び取組の見直し等の必要性があると判断された場合は、事務局は『大衡村有公共施設地球温暖化対策委員会』を開催し、見直しを検討します。

5-3 計画・実績の公表

本計画の取組状況や達成状況等は、広く村民等に公表します。

資料編

- ・ 温室効果ガス排出量算定結果

●平成29年度

区分	排出量(単位:kg-CO ₂)						合計	割合
	ガソリン	灯油	軽油	A重油	LPG	電気		
役場庁舎	31,425	1,220	23,567	62,330	230	100,089	218,861	38.7%
福祉センター	0	0	3,056	0	326	16,681	20,063	3.5%
公民館(万葉研修センター)	0	5,560	0	0	68	7,998	13,626	2.4%
大衡小学校	452	398	80	0	30	130,263	131,223	23.2%
大衡中学校	721	1,021	0	0	155	99,075	100,972	17.9%
学校給食センター	0	0	655	56,910	533	22,599	80,697	14.3%
合計	32,597	8,200	27,359	119,240	1,340	376,706	565,442	100.0%
割合	5.8%	1.5%	4.8%	21.1%	0.2%	66.6%	100.0%	

●平成30年度

区分	排出量(単位:kg-CO ₂)						合計	割合
	ガソリン	灯油	軽油	A重油	LPG	電気		
役場庁舎	30,644	715	24,862	65,040	146	100,825	222,232	40.6%
福祉センター	0	0	4,102	0	288	14,955	19,344	3.5%
公民館(万葉研修センター)	0	4,823	0	0	79	7,179	12,080	2.2%
大衡小学校	745	1,850	150	0	38	119,504	122,286	22.4%
大衡中学校	655	0	0	0	166	89,372	90,193	16.5%
学校給食センター	0	0	599	56,910	505	22,963	80,977	14.8%
合計	32,045	7,388	29,712	121,950	1,220	354,797	547,112	100.0%
割合	5.9%	1.4%	5.4%	22.3%	0.2%	64.8%	100.0%	

●令和1年度

区分	排出量(単位:kg-CO ₂)						合計	割合
	ガソリン	灯油	軽油	A重油	LPG	電気		
役場庁舎	29,118	446	23,423	71,544	126	92,401	217,058	40.3%
福祉センター	0	436	5,075	0	99	14,319	19,929	3.7%
公民館(万葉研修センター)	0	4,781	0	0	73	7,405	12,258	2.3%
大衡小学校	846	1,419	0	0	46	114,579	116,890	21.7%
大衡中学校	889	498	0	0	131	78,766	80,284	14.9%
学校給食センター	0	0	588	67,208	1,170	23,280	92,246	17.1%
合計	30,854	7,580	29,087	138,752	1,645	330,749	538,666	100.0%
割合	5.7%	1.4%	5.4%	25.8%	0.3%	61.4%	100.0%	

●令和2年度

区分	排出量(単位:kg-CO ₂)						合計	割合
	ガソリン	灯油	軽油	A重油	LPG	電気		
役場庁舎	20,398	18,284	20,190	8,130	0	83,424	150,426	31.3%
福祉センター	0	1,444	390	0	14	10,600	12,448	2.6%
公民館(万葉研修センター)	0	4,746	470	0	82	5,963	11,262	2.3%
大衡小学校	1,033	1,145	0	0	17	126,551	128,746	26.8%
大衡中学校	1,174	2,067	0	0	55	93,629	96,924	20.2%
学校給食センター	0	0	522	57,723	405	21,800	80,450	16.8%
合計	22,605	27,686	21,572	65,853	573	341,966	480,255	100.0%
割合	4.7%	5.8%	4.5%	13.7%	0.1%	71.2%	100.0%	

●令和3年度

区分	排出量(単位:kg-CO ₂)						合計	割合
	ガソリン	灯油	軽油	A重油	LPG	電気		
役場庁舎	19,156	1,013	21,807	0	0	123,110	165,085	30.8%
福祉センター	0	747	1,460	0	11	12,397	14,615	2.7%
公民館(万葉研修センター)	0	5,184	278	0	63	6,240	11,765	2.2%
大衡小学校	839	1,345	0	0	17	142,059	144,260	26.9%
大衡中学校	874	2,540	97	0	75	112,228	115,814	21.6%
学校給食センター	0	0	737	59,891	512	23,229	84,369	15.7%
合計	20,869	10,829	24,379	59,891	678	419,263	535,908	100.0%
割合	3.9%	2.0%	4.5%	11.2%	0.1%	78.2%	100.0%	

●令和4年度

区分	排出量(単位:kg-CO ₂)						合計	割合
	ガソリン	灯油	軽油	A重油	LPG	電気		
役場庁舎	21,450	0	21,503	0	0	132,636	175,589	30.5%
福祉センター	46	1,225	2,260	0	42	14,836	18,410	3.2%
公民館(万葉研修センター)	0	5,336	377	0	32	6,591	12,335	2.1%
大衡小学校	974	1,310	0	0	3	145,438	147,726	25.6%
大衡中学校	1,091	3,561	0	0	83	123,233	127,968	22.2%
学校給食センター	0	0	650	68,563	1,360	23,626	94,199	16.3%
合計	23,562	11,432	24,789	68,563	1,520	446,360	576,226	100.0%
割合	4.1%	2.0%	4.3%	11.9%	0.3%	77.5%	100.0%	